

## 2. II 黒層遺物とその遺構について

**萩ヶ岡1、2式期の遺構：**図X-1-②に縄文時代中期前半Ⅲ群a類期の住居と土壙を示した。本文中で示したとおり、H-4、P-1、P-19、P-32について、それぞれの時期を決定する遺物中に共通する土器がある。従ってこれらを遺構のセットとして捉える事ができる。共通する土器とは、図1に拓影で示した土器a<sub>1</sub>（図VI-35-1）と土器a<sub>2</sub>（図VI-35-10）、土器b（図VII-23-2）のうち2ないしは1種類である。a<sub>1</sub>とa<sub>2</sub>はいずれも径2mmほどの半截竹管による連続した押し引きを隆帯に施し、胎土と焼成についてよく似る。別個体だが、同一時期の土器と判断した。またa<sub>1</sub>とa<sub>2</sub>、bは包含層からも出土している。その出土位置について遺構配置図に示した。a<sub>1</sub>とa<sub>2</sub>を'a'、土器bを'b'として表した。すると4つの遺構に囲まれた台地上平坦部に分布が集中することがわかる。焼土の集中A〔F-32、40、47、48、50〕（VI章-4参照）や図VII-37に示した包含層出土石核の分布もほぼ合致する。当時、住居の南側に焼土が広がり、3基の土壙を利用したことが伺える。台地平坦面には小型の円形土壙P-6、7、13が分布する。本調査区内では定形的な遺構である。先の4遺構と時期的に同一かどうか遺物上からは判断できない。さらに、東側の一段低位な段丘面のII黒層焼土群付近に土器aの出土がある。関連して、太矢印で示した位置から北海道式石冠（縄文時代円筒土器文化特有の遺物）が出土している事を付記する。以上、同一時期の空間利用モデルとして提示する。

**萩ヶ岡式土器：**今回、萩ヶ岡1、2式が出土した縄文土器の主体である。この土器群を特定の期間を表す遺物群として認識する。編年上後続する萩ヶ岡3式（天神山式）の土器片はなかった。そこで、対比のために萩ヶ岡1、2式、萩ヶ岡3式、萩ヶ岡4式について、当遺跡から比較的近くに位置するユカンボシE7遺跡、キウス5遺跡C地区の遺構に伴う土器をそれぞれにあてはめた（①）。一般に、萩ヶ岡3式を構成する器種をみると、波状口縁の頂部を棒状に造り出し、地文は斜行縄文の器が目立つ。胴部のふくらみが強くなり、口縁部には明瞭な肥厚帯を造り付ける。半截竹管施文について、竹管の端部で粘土紐の側縁辺を器に押しつけ、そのまま粘土紐上を直線的に引くという操作を連続した『刺突A』（VII章-3参照）に類する刺突と、隆帯とは無関係に、竹管により器表面を直に押引いて加飾する、という2種類の装飾方法が普遍的となる。萩ヶ岡4式（柏木川式）については、頸部に屈曲部分を持ち、突起様の波頂部はあるものの平口縁といってよい深鉢が目立つ。3式段階においても、ウに示した様な平口縁深鉢はあるが、器形としてより確立する。ところで今回出土のⅢ群a類土器について、円筒上層式b、c式の影響が強い撲糸圧痕文を隆帯上に連続して施す個体や、上層式そのものについて確定できる物（①-ア）はない。③は、北海道の天塩山地、日高山脈より西の地域において、萩ヶ岡1、2式に併行する土器とその直前直後の土器を並べたものである。道南を中心とした沿岸部には、円筒上層b式から系譜がある弧線文モチーフを、細い隆帯や沈線で器面に施す土器が分布する。三角形の波状口縁を持ち、胴部がゆるく膨らむ。口縁部文様帶に大木8式起源の渦巻き文様をあしらう榎林式に類した個体もある。それに対して石狩低地帯を分布の中心とする土器群は、胴部上半に直線構成の文様を施す。隆帯上連続刺突について施文具は多様である。今回出土の1、2式について、隆帯上‘く’の字形連続施文の方法に、棒状工具と半截竹管、2種類の施文方法があり、相関的である。3式期の半截竹管施文の緒源が伺える。1、2式は器面調整を終えてから隆帯もしくは沈線加飾をする。調整として器内面をよく磨き、縄文施文によって器面を整える。隆帯の剥落したものについて裏面をみると、縄文地文の凸型が転写されているものがある。器面調整を先に施すため、粘土紐貼付けの直前には器表面が乾いていたことがわかる。この時期の遺物について焼成時の隆帯剥落は多い。隆帯上に施された連続刺突や短沈線の役割として、粘土紐の剥落防止もあると思われる。

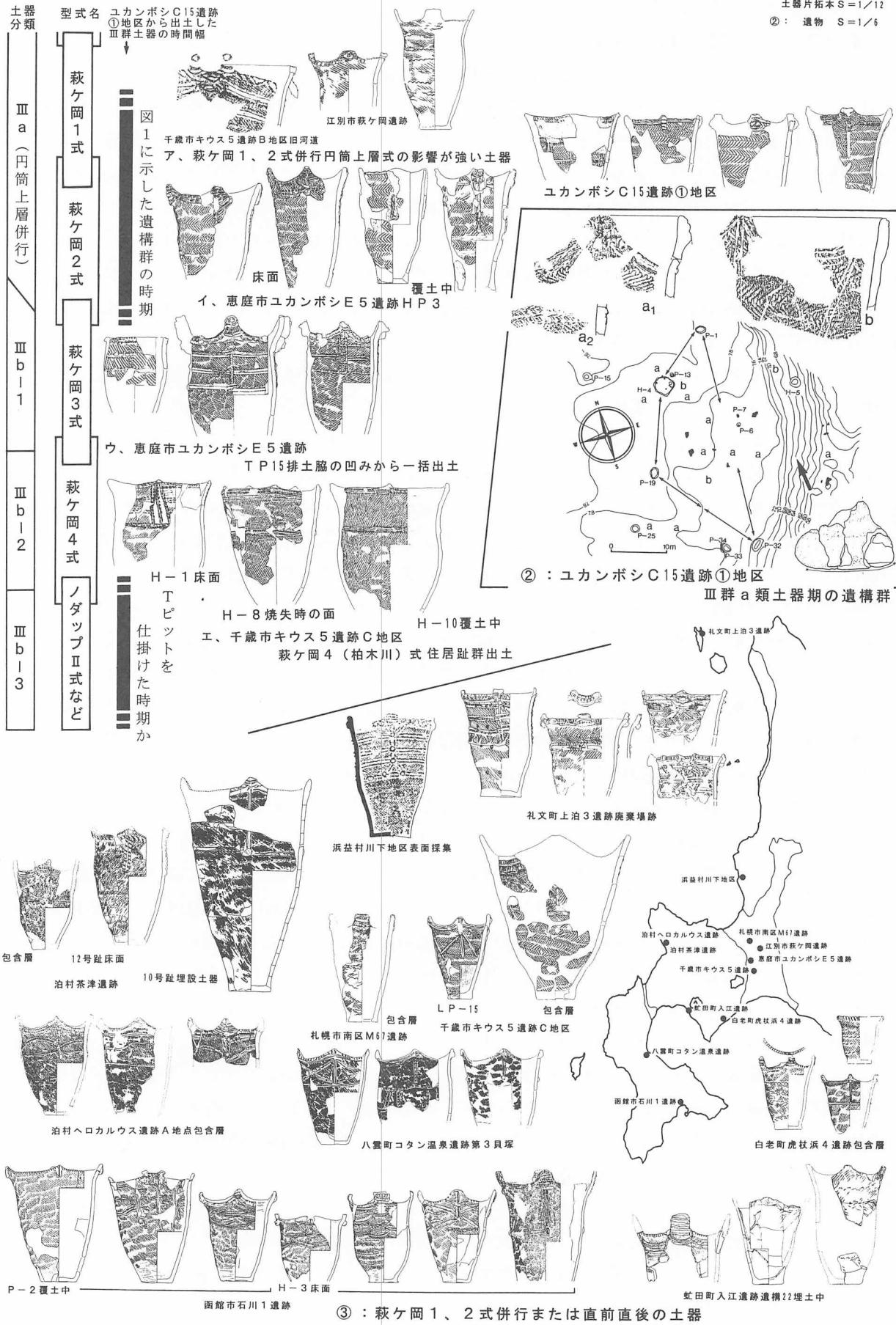
『刺突A』には、それがよく表れていると考える。

（大泰司統）

## 2. II 黒層遺物とその遺構について

### ① : ユカンボシ C15 遺跡①地区周辺縄文時代中期中葉の土器変遷

①③ : 復元土器 S = 1/16  
土器片拓本 S = 1/12  
② : 遺物 S = 1/6



図X-1 II 黒層遺物とその遺構 関連図